

科目名	基礎看護技術Ⅲ (フィジカルアセスメント) Fundamental Nursing skills Ⅲ		担当教員 (研究室番号)	多久和 有加 (208) 川島 珠実 (202) 菅原 啓太 (204)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次 後期	科目 区分	専門科目・実践基盤看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(30)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	さまざまな健康レベルにある人に適切な看護を行うために、対象の身体状態を客観的かつ正確に把握する基本技術（問診、視診、触診、打診、聴診）を修得する。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。（技能・表現）										
	関連する DP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。（知識・理解） E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。（思考・判断）										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィジカルアセスメントの意義を説明できる。</li> <li>2. フィジカルアセスメントの基本技術（問診、視診、触診・打診・聴診）を説明できる。</li> <li>3. バイタルサインを正確に測定できる。</li> <li>4. 系統別（外皮・筋骨格・神経系、消化器系、呼吸器系、循環器系）のフィジカルアセスメントの方法と留意点を説明できる。</li> <li>5. 自らの学習課題に対して着実に演習や自己練習に取り組むことができる。</li> </ol>											
成績評価方法 (基準)	筆記試験（50点）、課題レポート(40点)、技術確認（10点）による総合評価を行う。なお、筆記試験・技術確認はそれぞれ60%以上の評価、かつ総合点60点以上であることを単位認定の条件とする。											
再試験の有無と 基準等	単位認定の条件を満たさない者のうち、本人からの申請を担当教員が認めた場合、再試験を受けることができる。											
教科書	守田美奈子監：写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス，インターメディカ 松尾ミヨ子他編：基礎看護技術Ⅰ コミュニケーション/看護の展開/ヘルスアセスメント，メディカ出版											
参考書等	L. S. Costanzo：コスタanzo明解生理学，エルゼビア・ジャパン その他、授業の中で適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と 学生への期待	<p>本科目では、自分自身やクラスメイトの身体、シミュレーターを使って、適切な観察方法を学びながら、身体が発する様々な兆候を確認します。お互いの身体やその特徴を尊重しながら学ぶことで、これから出会う対象者に適切に配慮できるようになってもらいたいと思います。また、観察によって情報を得るだけでなく、対象者の健康や生活を支える看護ケアに繋げる重要性についても考えてほしいと思います。</p> <p>本科目では形態機能学の学習内容と連動しながら授業を進めます。人体の構造や機能の知識を持っていることが前提となりますので、復習した上で授業へ参加しましょう。また、フィジカルアセスメントの基本技術は、授業を受けるだけでは修得することができませんので、授業後の復習や自己練習を主体的に行うことを期待します。</p>											
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の一週間前までにWebClassに授業概要や事前課題（レポート・映像教材視聴含む）や 演習資料（演習ノート）等を提示する。それを授業までに各自でダウンロードし、事前準備・予習を行う。</li> <li>・演習前には、個人や演習グループで自分たちが演習で用いる物品を準備する。他に当番制で、演習準備と演習後の片付けがあるため、自己の役割を理解して主体的に取り組む（詳細はオリエンテーションで提示する）。</li> </ul>											
回	学習項目			学習内容					主担当 教員	授業 方法		
1回	オリエンテーション フィジカルアセスメントの概要と意義			フィジカルアセスメントの意義を学ぶ。 フィジカルアセスメントに必要な基本技術（問診、視診、打診、触診、聴診）を学ぶ。					多久和	講義		
2回	バイタルサインの測定①			バイタルサインを測定する意義を学ぶ。 体温・脈拍・呼吸・意識レベルを正確に測定・評価するための基礎知識を学ぶ。					多久和	講義		
3回	バイタルサインの測定②			体温・脈拍・呼吸を安全・正確に測定するための技術を学ぶ。					多久和、 他	演習		
4回	バイタルサインの測定③			血圧を正確に測定・評価するための基礎知識を学ぶ。					多久和	講義		
5回	バイタルサインの測定④			血圧を安全・正確に測定するための技術を学ぶ。					多久和、 他	演習		
6回	消化器系のフィジカルアセスメント①			消化器系のフィジカルアセスメントの基礎知識を学ぶ。					川島	講義		
7回	消化器系のフィジカルアセスメント②			基礎的な消化器系のフィジカルイグザミネーションの方法を学ぶ。					川島、他	演習		

8回	呼吸器系のフィジカルアセスメント①	呼吸器系のフィジカルアセスメントの基礎知識を学ぶ。	多久和	講義
9回	呼吸器系のフィジカルアセスメント②	基礎的な呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの方法を学ぶ。	多久和、 他	演習
10回	循環器系のフィジカルアセスメント①	循環器系のフィジカルアセスメントの基礎知識を学ぶ。	多久和	講義
11回	循環器系のフィジカルアセスメント②	基礎的な循環器系のフィジカルイグザミネーションの方法を学ぶ。	多久和、 他	演習
12回	外皮・筋骨格・神経系のフィジカルアセスメント①	外皮・筋骨格・神経系のフィジカルアセスメントの基礎知識を学ぶ。	川島	講義
13回	外皮・筋骨格・神経系のフィジカルアセスメント②	基礎的な外皮・筋骨格・神経系のフィジカルイグザミネーションの方法を学ぶ。	川島、他	演習
14回	技術確認	バイタルサインを正確に測定できることを確認する。	多久和、 他	演習
15回	総合演習	事例の対象者に必要な問診やフィジカルイグザミネーションをグループで考え、得られた情報から対象者の身体状況をアセスメントする。	菅原、他	演習

## 学 習 課 題

※レポート課題の提出や配点は、別途知らせる。

- 第1回課題（事前）：授業ガイダンス資料を事前に読み、学習方法・内容の概要を理解する。  
教科書や資料を基に、フィジカルアセスメントの基本技術の特徴について整理する。
- 第1回課題（事後）：教科書や資料を基に、フィジカルアセスメントの意義および概要について整理する。  
フィジカルアセスメントの基本技術を復習する。
- 第2・3回課題（事前）：形態機能学の知識や教科書・資料を基に、体温・脈拍・呼吸のメカニズムを復習する。  
教科書や資料を元に、バイタルサインの測定項目と正常値を整理する。
- （事後）：授業資料や演習資料を元に、体温・脈拍・呼吸の測定を復習する。
- 第4・5回課題（事前）：形態機能学の知識や教科書・資料を基に、血圧調整のメカニズムを復習する。  
（事後）：事例に沿った方法でバイタルサインの観察を行い、血圧の測定を復習する。
- 第6・7回課題（事前）：形態機能学の知識や教科書・資料を基に、消化器系の人体の構造や機能を復習する。  
（事後）：消化器系のフィジカルイグザミネーション結果から、正常と異常をアセスメントして記録に整理する。
- 第8・9回課題（事前）：形態機能学の知識や教科書・資料を基に、呼吸器系の人体の構造や機能を復習する。  
（事後）：呼吸器系のフィジカルイグザミネーション結果から、正常と異常をアセスメントして記録に整理する。
- 第10・11回課題（事前）：形態機能学の知識や教科書・資料を基に、循環器系の人体の構造や機能を復習する。  
（事後）：循環器系のフィジカルイグザミネーション結果から、正常と異常をアセスメントして記録に整理する。
- 第12・13回課題（事前）：形態機能学の知識や教科書・資料を基に、外皮・筋骨格・神経系の人体の構造や機能を復習する。  
（事後）：外皮・筋骨格・神経系のフィジカルイグザミネーション結果から、正常と異常をアセスメントして記録に整理する。
- 第14回課題（事前）：自己の技術の課題を明らかにし、バイタルサインを正確に測定できるよう技術向上を目指す。  
（事後）：自己の技術評価から見出された課題克服に向けた学習計画（知識・技術両面）を立案する。
- 第15回課題（事前）：事例の対象者に必要な問診やフィジカルイグザミネーションの内容を整理する。  
（事後）：得られた情報から対象者のアセスメント結果をまとめる。
- ※基礎看護技術Ⅲの学びを通じて、フィジカルアセスメントを実施する意義について、最終レポートを作成する。

## 実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。